

電機ジャーナル

DENKI JOURNAL

広報委員スコープ ②

覗いてみよう！
電機連合本部！

楽しく実践！組合活動 虎の巻 ④

<ミットヨ労働組合>
一歩踏み出すことが
職場環境をよくする

INSIDE ▶ OUTSIDE

労働:大澤 賢
「もっと多くの労働者を結集して
政治を変えていこう」
古賀伸明・前連合会長インタビュー

政治:伊藤 惇夫
安倍政権の“成長幻想”が
もたらすもの

経済:高成田 享
競争の時代を迎えた地方
潜在力を引き出す企業に期待

全力で聴く。全力で届ける。参議院議員 石上俊雄

不適切会計に関する
2つの『調査報告書』

地協探訪

茨城地方協議会

INFORMATION

電機連合の政策を
実現・推進するために
～「社会に貢献する電機産業を考える会」発足式を
開催しました～

大使館便り from マッキー ⑥

在英国日本国大使館 一等書記官
斎藤 牧人



新春対談

コミュニケーションの再考で 日本を再興する！

電機連合中央執行委員長

タレント

有野 正治 × パトリック・ハーラン

やた 矢田わか子・加藤敏幸・石上俊雄 座談会

みなさんの声に寄り添い、
いっしょに進んでいく



vol.239

全ての物事の根底にある、人と人とのコミュニケーション。その技術を磨けば、今よりもっとお互いの心を通じ合えるはずだ。コミュニケーションのコツやヒントを、バックンことパトリック・ハーラン氏に聞いてみよう。

◀ 日本流のよさと悪さ

有野 明けましておめでとうござい
ます。

バックン おめでとついでござい
ます。

有野 新春対談は毎回けっこう緊張
してしましますが、今日は相手が話
し上手なバックンなので、リラック
スして臨めればと思います。そうい
えば、先日バックンが日立製作所に
来てくれたと聞きました。

バックン NHKBS1の「地球ア
ゴラ」という番組の収録をしたんで
す。世界各地に住む日本人と、日本
のスタジオやロケの現場を衛星中継
でつなぎ、世界の今々について話し
合うという番組で、その回のテーマ
は、日立が課題としても取り上げて
いるワーク・ライフ・バランスにつ
いてでした。

アメリカ、ドイツ、スウェーデン
でそれぞれ働いている日本人と、日
立の社員数名という構成でしたが、
現地と日本のワーク・ライフ・バラ



ンスの考
え方の違いな
ど興味深かったで
す。日立はもともとワーク・ライ
フ・バランスに力を入れていたそう
ですが、番組への出演が決まってか
らは、より意識してくれるようにな
ったという社員もいました。それ
でも、ヨーロッパに比べたら課題がま
だ山積んでいますね。

有野 バックンから見ても、日本の長
時間労働体質はどうですか。

バックン 効率が悪いと思います。
番組でも取り上げましたが、ドイツ
の方は勤務時間中は仕事に集中し、
決められた休憩時間以外は休ませ
ん。1人当たりになせる仕事の量
を上司が割り振ってくれ、もし仕事

対 談

ヨンの再考で 興する!

タレント

パトリック・ハーラン

1970年11月14日生まれ。コロラド州出身。ハーバード大学を卒業したあと来日。1997年に吉田真とバックンマクンを結成。日米お笑いコンビのバイオニア。「英語でしゃべらナイト」(NHK)で一躍有名に。「世界番付」(日本テレビ)などにもレギュラー出演。2012年に東京工業大学、非常勤講師に就任。2014年4月には講義内容をまとめた「ツカむ! 話術」(角川新書)が刊行。昨年から放送されている「外国人記者は見た! 日本inザ・ワールド」(BS-TBS)では司会を務める。芸名はバックン。

が終わらず勤務時間を超えてしまった場合は、本人か上司のどちらかに問題があるということで、きちんと時間通りに帰れるように調整します。そして毎年6週間くらい休みを取って、海外旅行に行ったりするんですよ。その休みもきちんと取れるように予め計算して。

有野 部下が休めるかどうか、上長の管理能力として問われるわけですね。

バックン そうです。日本の場合は、会議も効率が悪いと思います。必要なことを、必要な人で話せばいいのに、関係ない人も集まって会議をする。連帯責任の精神なのかもしれないませんが、それは効率と相反するのではないのでしょうか。

有野 人数の多さですが、日本はまず会議の数自体が多い。ものをつくるだけの会議ではなく、安全の問題や管理の仕方の問題など、ありとあらゆることを、会議を通してみんなに知らせているイメージです。

バックン 少しずつ改善されているとは聞きますが…。僕が社員だった20年くらい前は、無意味な会議が多かったです。日本で英会話学校の講師をやりながら、付属の専門学校の正社員でもあった頃ですね。会議の他に、朝礼やラジオ体操にも参加し

ていました。

朝礼が嫌いだったわけではないですが、それが義務化されていたことが、腑に落ちません。その朝礼の10分が、勤務扱いで勤務時間である8時間の中の10分であれば文句はないですよ。でも、10時から勤務開始だから9時59分に席に着けいと思いうのに、勤務外のもののために9時50分出社を強制される。日本人のみなさんは暗黙の了解なのかもしれませんが、外国人の僕にとってはその矛盾が理解しづらかったです。

有野 よくも悪くも、日本流、みたいなところ。

バックン 僕はもう20年以上日本にいますので、かなり慣れました。逆にアメリカに帰ると、電車が時間通りに来なくて、逆カルチャーショックを受けるくらいです。



新春

コミュニケーション 日本を再

電機連合中央執行委員長

有野 正治

1955年山形県生まれ。日立製作所労働組合書記長、日立製作所労働組合中央執行委員長(日立グループ連合会長)を経て、2010年から現職。趣味はマラソン、歩く旅。

わび・さびの国がいつの間にか...

有野 グローバル化という意味では、日本のいいところは残し、悪いところは直していく必要がありますね。古いものがないということではないんですが、最近はその「ものづくり」に対する執念みたいなものが、薄れてしまっているように感じます。

100円の使い捨てライターのように、何でも安く手に入るようになった分、そこに「ものづくり」の技術や伝統が感じられませんか。手作りのジッポだったら、オイルを足して使い続けるのに…。日本だけの話ではないですがね。

バックン T P Pが大筋合意になり、また物の循環が始まります。世界からの「安いものを使い捨てる文化」と、日本の「よいものを代々伝えていく文化」の競争は、どうなっていくのでしょうか？

有野 農産品や自動車は見えていますが、電機産業にとってどんな影響があるのかは、まだ見えていないんです。

バックン 時計メーカーが集まるスイスは、ある意味日本と少し似ています。物価が非常に高く税金も高いです。埋蔵資源も少ないし、人件費も高い。それでもスイスの経済は元

気なんです。元気なのはスイス製品がブランドで勝負できるからです。

そして、日本もスイスと同じぐらいのブランド力を持っていると思うんです。スイスは高級路線ですが、日本は例えばシンプル路線。生け花や茶道など、日本はもともとシンプルなものを大切にしている国ですよ。わび・さびという言葉のように。

有野 そうです。それなのにいつの間にか、いっぱいボタンがついたりモコンを作るようになってしまった。

バックン 日本のリモコンを初めて見たときは、驚いてひっくり返りそうになりました。あんなにたくさん機能を誰も求めていないでしょう。

有野 それだけの機能があるから、取扱説明書もすごい厚さになってしまい、本当に使いたい機能の説明がどこにあるか分からない！ あれは便利さを追い求めたのではなく、「こんなに技術がある」ということを証明したいだけかもしれません。

究極に便利さを追い求めたら、ダイヤル1個で全ての操作ができるiPodのような発想が生まれると思うんです。機能を詰め込む方向に行った結果、商品の差別化が難しくなり、結局価格競争になっている。

昔の「地域に根ざし、従業員に愛されながら歴史を刻んでいく」という企業観や、儲け主義ではないとい



ろが日本のよさだったはずなのに、今はグローバル化の名のもと、世界的に見られる儲け主義の方に進んでしまっている気がします。

バックン スイスのように高級路線で行くか、価格競争に乗るか、日本のそれぞれの業界が方向性を考えないといけないですよ。日本独特の価値を守り、他と差別化できるように技能やコミュニケーション能力がないと厳しいのは間違いない。でも、スマートフォンに入っている部品など、まだまだ日本が強いものもたくさんありますよ。

有野 部品は強いんですが、それを製品化して世に出すところが弱い。よくも悪くも、これが日本の文化なのかもしれない。アメリカでは「出る杭は伸びる」けど、日本は「出る杭は打たれる」から。

バックン そうすると異色のことはできないですよ。マニュアル通りになってしまふ。そもそのマニュアルを作る人、そしてマニュアルを破る人がほしいです。

話術の基本要素は

「エトス」 人格的なものに働きかける説得力
「パトス」 感情に働きかける説得力
「ロゴス」 頭脳に働きかける説得力

有野 今回、「ツカむ！話術」（角川新書）を始め、バックンの著書を何冊か読みましたが、そもそもなぜコミュニケーションに興味を持つようになったんですか？

バックン いろいろと偶然が重なった結果なんです。ある日、東京工業大学（以下、東工大）の教授である池上彰さんから、僕宛てに「東工大で講師をやる気はないですか？」と、電話がかかってきました。突然のことだったので戸惑いつつも、次の瞬間「ぜひやらせてください！」と答えていました。

それから、何を教えられるのかを話し合い、東工大が必要としているトピック、かつ僕が教えられるノウハウということで、コミュニケーションというテーマに至りました。そうやって始まった「コミュニケーション」と国際関係」という講義は、今年でもう4年目になります。



有野 それベースになって、この本が生まれたんですね。

バックン 修辞学や自分の経験など、いろいろな要素を入れながら書いてみたところ、意外と論理的にコミュニケーション術をまとめることができました。ここまで上手いくとは自分でも思いませんでした。

ただ、思い返してみると父がアマチュア劇団の演出家だったこともあり、僕自身6歳くらいから舞台に出ています。父は引退後に、自分の会社をつくり、コミュニケーションのセミナーを教えていたんです。偶然にも僕はコミュニケーション学のサブレッドだったみたいです。

有野 そうなんですか。やはり、血筋は引いているんですね。日本人の

コミュニケーションの取り方はいかがでしょうか？

バックン 日本人特有のコミュニケーション術があると思うんです。それは、相手の言わんとしていることを察する術でもあり、空気を読む術でもある。でも、「自分の言いたいことを相手が読んでくれる」ことを前提にコミュニケーションを取っていると、発信する側は「分かってくれているだろう」と相手に甘えてしまおうし、時には誤解が生じてしまうこともあるでしょう。日本人は、受信力は高く、発信力は低い国民なんだと思います。

有野 『ツカむ！話術』の中には、日本人があまり使わない言葉がたくさん出てきました。特に、「エトス」「パトス」「ロゴス」という3つの単語。一つずつ解説してもらえると有り難いです。

バックン その3つは、アリストテレスも唱えている話術の基本で、説得力を上げ相手の心を掴むための大事な要素です。

まず、信頼性という意味の「エトス」。人格的なものに働きかける説得力です。例えば、初めてお会いする方と名刺交換をするときに、渡し方や受け取り方がきちんとしていれば、エトス度が上がります。逆に、そういう礼儀の部分ができていないと、

エトス度が下がってしまいます。有野委員長は、今日初めてお会いしたときに、きちんとごあいさつしてくださいました。事前に僕の本も読んでくださっていました。



それに対し、僕は親近感や感謝を感じることができ、エトス度アップです。

有野 知、経験、実績、肩書など、他にもいろいろな場面でエトス度は上下しそうですね。

バックン その通りです。次の「パトス」は、感情に働きかける説得力です。同情や愛国心、喜び、怒りなど、相手に特定の感情を抱かせることで、説得力が上がります。

これは子どもが上手で、例えば転んでちよつとした怪我をしたときに、周囲に誰もいないときは泣かなかつた子が、家に帰ってお母さんがいるのを確認してから泣き出す。それは、ほつとするといいことでもあります。相手がいるからこそ得をすることが分かっているからです。自分が泣いている姿を見せることで、お母さんの感情に働きかける、これがパトス。この「感情に働きかける」ことを意識することで、自分の説得力を上げることが出来ます。そこには相手が感情を動かされるような「ストーリー

性」が効果的です。

有野 そして3つ目の「ロゴス」。これは、頭脳に働きかける説得力と書かれています。

バックン ロゴスはロジックと同じ語源なので、論理的に語ることでと捉えがちですが、僕は「言葉の力」と解釈しています。「こうであるから、こうなる」という方程式のような話し方ではなく、何かに例えてみたり、一回否定した上で肯定してみたり、言葉の工夫によって話がおもしろくなり説得力も上がります。

例えば安倍政権の「3本の矢」という言葉。本当は3つ以上やりたいことがあるはずですが、3つにまとめています。これは人間の脳に3という数字がなぜか響くからです。「早い・うまい・安い」というように。さらには、毛利元就の「1本の矢は簡単に折れるが、3本にまとめると折れない」という逸話がありますが、それにも引く掛かっていますよね。だから言葉にインパクトがあり、内容はともかく印象には残る。これがロゴステクニクなんです。

しかし、いくら言葉の工夫しても、まずは信頼度がないと話を聞いてもらえません。だから、一番大事なものはエトス、次にパトス、最後にロゴスです。安倍政権は最近ロゴスにばかり力を入れている気がするかもしれませんが。



垣根を下げる 「コモンプレイス」

有野 話し方ってどうしても感覚に頼ってしまいがちだと思うので、「エトス」「パトス」「ロゴス」と言語化し整理してみると、非常に分かりやすいですね。実は今度、「リーダーシップについて」というテーマで、大学生に講演をする機会があります。そのときに、この3つの要素をぜひ取り入れたいと思っていますが、具体的なヒントがあれば教えてください。

バックン 展開の仕方として、例えば委員長ご自身が尊敬するリーダーはいますか？

有野 わたしが尊敬するのは政治家の後藤新平で、日本人らしからぬリーダーシップを発揮した方です。ただ、その話をすると聞き手は「受け売り」と感じてしまいませんか？

バックン それでは、その方をなぜ尊敬するのか、そしてどんな影響を受けて、どう行動するようになったか。そこまで掘り下げてみると、それはもう後藤新平ではなく有野委員長のストーリーになるし、聞き手も「受け売り」という印象は持たないと思います。

僕は、アリストテレスやオバマ大統領、ケネディ大統領など歴史的な人



物をよく例えに使いますが、それを最終的に自分のものにして発信するようにしています。バクリはダメですが引用は全然構いません。逆に、誰もが認めるようなリーダーを例に挙げることで自分のエトス度が上がりますから。

他に僕が心がけていることは、一方的に話すだけでは聞き手が飽きてしまうので、なるべく会場に集まった方と対話をするようにしています。対話が難しければアンケート形式にするとか。手を挙げるといふ簡単な行為でも、やるとやらないでは、参加度合いが全然違います。相手との距離感を縮めることも、エトス度を上げるには大切なことです。

有野 なるほど、こちらの輪に入れてしまおうということですね。

バックン そういうことです。そして輪に入れるためには、そのアンケートの内容も大事ですよ。例えば、大学生にとって先生は学生を正解に導くための、ある意味リーダー的存在です。そのリーダーシップを発揮するには、まず授業で学生を寝かさなないこと。相手が寝てしまったら何もできないですからね。

そこで大学生に「今年授業中に1回でも寝たことがある人」と聞くんです。おそらく8〜9割の人が手を挙げるでしょう。「ではこの1ヵ月の間に寝たことがある人」「1週間の間に寝たことがある人」「昨日寝た人」「今、この講演中に寝ている人」。笑いもあり、共感もできる。こうやって相手の感情を動かすことでパトス度が上がります。

有野 たしかに、授業中の居眠りは学生にとって共感できる話題ですね。本の中に出てくる「コモンプレイス」の意味がよく分かりました。

バックン 「コモンプレイス」とは、相手がみんな持ち合わせている共通の知識や意識、経験のことで、これを話の中に入れると相手に話が響きやすい。それは「同じ価値観を持っている」と相手が認識するからです。授業で寝るといふ話は、学生にとっ

ては100%コモンプレイスでしょう。

心が通じ合うための手段

有野 バックンの話の展開力がすばらしく、時間があつという間に過ぎてしまいます。最後に、過日の労働者派遣法改正の話にも通じることで、経営者が労働者を大事にしなくなっていることが、今、世界的な労働組合の共通課題となっています。普通、時代の進化とともに人間に対する尊厳が増していくはずなのに、昔の奴隷的な考え方に逆戻りしつつあるのではないかと心配です。

バックン 先進国の多くは、人口減少や雇用の流出により、労働力の減少に困っています。だからと言って、労働市場が自由なところで労働者が



みんな大事にされているかというところでもない。労働者はまず自分の価値を築き、その価値を企業側にどうアピールするのが大きな課題です。

日本の労働者派遣法の話で言えば、もちろん期間限定で労働者が必要な企業が世の中にあり、そこで正社員にしろらい事情も分かれますが、派遣元の会社が正社員にしない必要性はどこにあるのが疑問です。

有野 全く同じ思いです。「雇用の安定」「処遇の改善」「教育機会」の3つが、きちんと守られるのであれば、形は派遣でも構わないと思うんです。その会社に安定して無期雇用されていけば、派遣会社から見たらその人は正社員と同じですから。たまたま働き場所が派遣先に行っているだけ

で、管理元は全部派遣元にある。そうなれば、派遣という形もありですよ。

バックン それがなぜできないんでしょうか？

有野 問題の根底は、やはりコミュニケーション不足だと思うんです。労使間、派遣先と派遣元、組合と組合員、経営者と労働者、国や政府と国民。みんなしっかりと対話ができているんでしょうか。コミュニケーションの手段はさまざまですが、根っこには心があつて、心がいかに通じ合うか。これが非常に大事なことになるのに、今はこの重要性が薄れてしまっているんじゃないかな。

バックン 心はすごく大事であり、そして心を通じ合わせるためには、その手段も大事だと僕も思います。だから今日僕がお話したコミュニケーション術が、大変な課題を抱えている重要な組織の、そしてその頭である委員長の今後の活動に少しでも貢献できたらうれしいです。

有野 話し方について新たな視点で向き合うことができ、非常に興味深かったです。こういう時代だからこそ、すべての根底にあるコミュニケーションの重要性が際立ちますね。今日は本当にありがとうございました。

みなさんの声に寄り添い、 いっしょに進んでいく



各地を巡回している矢田さんと、これまで厳しい選挙戦を経験され、国政の場で活躍される先輩議員お二人に、政治や労働など、さまざまな課題について話し合ってくださいました。

スローガン「あなたと動けば、未来は変わる。」に込めた思い

矢田 9月から地協の巡回が実質的に始まり、今、加盟組合を回らせていただいています。集会など多くの組合員の方が集まった場面でお話しすることも増えましたが、みなさんの声をお聞きすればするほど、日に日に国政に挑戦することの責任感や使命感が増していきます。

また、拠点に伺うことができても、お会いできる方は限られているので、直接お顔を見て手を握らせていただいた方たちに、職場やご家族のみなさんへ「こんな話をしに来た人がいる」と、わたしの代わりに思いを広げ、いっしょに活動していただきたいというお願いもしているところです。このように活動していますが、まだ半分の折り返し地点にも来ていません。大先輩の加藤さん、石上さんのご経験を踏まえ、アドバイスをいただければありがたく思います。

石上 意外と忘れがちになるのが体調管理です。やはり本人が直接みなさんにお会いするのが一番ですから、

健康には万全を期してほしいです。あとは矢田さん自身が、これまで職場の仲間たちとさまざまな場面で積み重ねてきたやり取りのなかから「参議院挑戦」に至った思いを素朴に伝えていけばいいのではないのでしょうか。大切なのは常に人から人への「熱伝導」で、候補者の「やる気」「本気度」は必ず伝わります。

矢田 みなさんからの声の中でも、子育てや介護、漠然とした将来に対する不安の声が多く、それらに対して、どのように解決に結びつけるための行動を起こせるのか、電機連合の政策とも関連させながら考えていくことが必要と考えています。

また、地協巡回において組合員のみなさんと直接お話しすることを通じ、わたしたちの働きや暮らしに直結することとして政治への関心を高めていきたいという思いも持っています。

加藤 今、「お任せ民主主義ではダメだ」という流れがありますが、それは有権者のみなさんが自分ごととして問題を捉え、考えることが非常に大切な時代に入ってきたということ。安保法制の問題だけではなく、大きな流れとして、日本の政治自体が曲がり角に来ていると思います。

みなさんの「政治参画」の一つの形が、紹介カードを書き、投票により国会に代表者を送ることです。た



だ、それも非常に意味のあることで、それが、選挙のときだけではなく、その後の代表者の活動についても関心を持っていただきたという事です。それはメールであったり、組合の役員を通じてであったり、各々のやり方でいいんです。矢田さんには、そんな風になんかとの距離感の近い関係を、ぜひつくってほしいし、それが活動の一つのポイントになると思います。

あとは、組合員のみなさんに分かりやすい言葉を使って伝えることや、矢田さんを中心に結集している姿を見せることも大切です。例えば、集会や門立ちをする際に、矢田さんだけでなく、その周りの執行部や職場委員の方も矢田さんと同じくらい熱い気持ちで臨んでいただきたい。その姿勢や雰囲気は、きつと通りがかりの人にも伝わり、矢田さんへの応援が広がると思います。

矢田 加藤さんのお話の通り、わたし一人の挑戦ではなく、みなさんといっしょに参画し、新しい社会をつくる運動に手を貸してほしいという呼びかけのつもりで、スローガンを「あなたと動けば、未来は変わる。」とさせていただきました。

生活者視点での 具体的施策の実行を！

矢田 巡回していて女性から「子どもを産み、育てていくことへの不安」についてご意見をいただくことが多いです。根本的な問題について、10年前の少子化対策基本法は、仕事をもち人の意見をどれだけ聞いたのか疑問を感じるほど、「本当に大変なんです」という声が多い。子どもを産みたいと思っても、経済的なことや肉体的・精神的なことを考えると、産めるかどうか躊躇してしまうのが

現実なんです。

労働組合は、両立支援制度の整備に取り組んできましたが、そもそも公的な仕組みの整備が遅れているので、この問題の解決策が具体化整備されなければ、職場での取り組み効果があがらず少子化に歯止めがかからない。政府が掲げる「出生率1.8」、介護の場合は「介護離職ゼロ」については数値目標だけでなく、職場の声をもとに現実を直視した具体的施策が必要であると考えています。

加藤 実現できない数値目標や、格好いいスローガンを掲げインパクトだけ与え、あとは何となく時間が経過していくのが安倍政治の手法です。矢田さんが聞いている現場からの悲痛な声が真実なのに、それに対して政治は何もしていない。現場の声を受け止めるのが本来の政治であり、そこに余計な理屈や装飾は不要です。

矢田 女性の平均勤続年数は20年を超え、長く働き続けている女性が増えています。そのような観点から今般の女性活躍推進法については、「すべての女性が輝く社会づくり」という政府のスローガンにもとづき、いかに具体的施策を掲げて実効性を高めていくのか、注視していきたいと思っています。

世界の中でも、育児をしている日本人の女性の睡眠時間が一番短いと言われる方もおり、日本ではまだまだ女性中心に家事や育児の役割を担うことが多い。その状況の中で働き続けること自体も大変ですが、さらにその中でキャリアを積みたと思っっている方もいます。そういう方を支援するような政策があつて、はじめて「輝く」ことになるのではないのでしょうか。



一番優先されるべきは何か？

加藤 安倍政権の一貫性のなさは多くの面に表れています。例えば今、給料が安いから介護人材が集まらず、人手が足りないという状況になっています。政府は財政優先で、介護サービスを担う人材育成・確保のことには考えが及んでいません。中小企業の業績や、地方に景気回復の実感がない原因は、働く人を通じてお金が回っていないという、もっと根本的なところにあります。

安倍政権も賃上げをすることの大事が分かってから、労使会議で「賃上げしなさい」と口を出してきた。大企業に対してはそう言うても、結局、中小企業や地方の賃金が向上・改善するような対策はないわけです。

そしていざ賃上げをされても、将来に対して安心感がないから、なかなかお金を使えません。財政の再建を視野に入れながらも、やはり一番は、労働者が抱える育児や介護の問題に

対して政府がお金を使うことです。10年、20年先のことを考えると、このことが大事だと思っただけです。「誰の問題を最初に考えるか」の順番が、今の与党と、わたしたちでは違うんです。

石上 今ほど「仕事のあるべき論」

が問われている時代はないと感じます。賃金も重要ですが、誰しも自分以外の誰かに必要とされるのが本当に大切です。人はその喜びで成長し、今度は自分を育んだ社会に貢献するのです。「このご時世、甘いことを」と思われるかもしれませんが、しかし、ディーセント・ワーク（働きたいのある人間らしい仕事）こそが、あるべき健全な社会を紡ぐのです。

自分や家族、また広い意味で社会にとっても何か意味のある貢献ができたと感じられ、一日の終わりに、ほんのわずかでいいから良い気分になれるような、真の意味で報われる、そんな社会がわたしの理想です。



矢田 わたしも「働く人が報われる

社会づくり」を、政策の一つの軸にしています。高度成長期の頃は、自分たちも一生懸命知恵を絞って働き、それが成果につながれば賃金が上がっていく時代でしたので、賃金を得て生活が豊かになり、やりがい・働きがいを感じられたと思います。今それを感じられない原因の一つに、賃金が上がらないこと、そして将来に不安があること。何よりも非正規労働者があまりに多く、将来も見えず、先行きが不透明な中で毎日不安を抱えながら生活されていることは、社会的に大きな問題であるとともに、組合員の家族にもおられる場合もあり、わたしたちにとって身近な課題であると思っています。

加藤 今度の労働者派遣法の改正で、政府は非正規という働き方を増やしていくという法制度を取りました。そういう方針であるなら、生活者保護や社会保障なども同時に強化していかねばなりません。しかしそ

ういふ方針であるなら、生活者保護や社会保障なども同時に強化していかねばなりません。しかしそ

加藤議員 活動報告

● 参議院本会議で安倍首相の所信表明演説に対する代表質問。特に雇用・労働問題を中心に安倍政権の考えを質しました。



● 経済産業委員会の野党筆頭理事を担当。第189回通常国会では「官公需の中小企業者の受注確保に関する法改正案」「電気事業法等改正案」「特許法改正案」など、8本の法案・承認案件を審議しました。

● 「官公需の中小企業者の受注確保に関する法改正案」の審議では中小企業のものづくり支援策や地域振興のあり方などについて政府の考えを確認しました。

● 「電気事業法等改正案」の審議では、都市ガスを含めた自由化・事業分割に対して、エネルギーの安定供給と雇用確保を軸に徹底審議し、いくつかの懸案事項への対応を附帯決議で明文化させました。

● 「特許法改正案」の審議では、職務発明の権利を企業に帰属させる際に、従業員が不利にならないよう対応を求めました。

● 決算委員会において、「空き家・空きビルの福祉施設への転用」の進捗状況や課題・検討状況を確認しました。



の部分は欠落していて、当たり前前に保つべくバランスが取れていないんです。パートタイマーを含めた1970万人もの非正規の方たちに、安心や安定感を持ってもらわないと、社会全体がささくれ立ち、暗い雰囲気になってしまいます。

一人では埒があかないので、みんなできいっしょになって同じ苦しみや不安に対してがんばろう。そして最後は労働組合をつくり、自分たちで

議論して経営者や行政機関に対抗していく。この権利が憲法で与えられているのです。このことを再認識すれば、非正規労働者を含んだ労働運動の新時代が始まると思います。

今年の取り組みについて

石上 今回の労働者派遣法は、政府

・与党が働く者の声を十分聴かず、審議をゴリ押ししたことが大きな問題です。派遣と一括りにしても実態は千差万別で、わたしたち電機連合にも直接関係する仲間たちが大勢います。彼ら彼女らの声を法案準備の段階で十二分に聴くべきでした。今後、そうした機会は来ますので、国会に限らず審議会などいろいろな場面で、仲間の声がきちんと届くようにわたしたしも全力でがんばります。

加藤 そもそも国会は政府のためではなく国民のためにあるわけですから、少子化対策など現場からの要求という形で投げかけ、国会で議論していくのが筋です。また経済に関しても、国民のみなさんが持っている不安や問題意識に対して、問題点を曖昧にするのではなく、明らかにして正直に話をすることが大事です。

選挙では、できもしないおいしい話を並べがちですが、わたしたち議員や候補者、政党が正直に話さなければなりません。

矢田 わたしも巡回しながら、あえて「今の日本の借金、どのくらいあるかご存じですか」と組合員のみなさんに投げかけています。1000兆円を超える借金があり、生まれた瞬間から日本人は一人820万円の借金があるということをご存じない方が多い。子どもや孫の時代にずっと負の遺産を先送りしていいと思いますかとお聞きすると、みなさんそこではじめて自らのこととして考えだされます。マイナスからのスタートだということを引きちんと明らかにしたうえで、その負の遺産をこれからわたしたちがどうしていくのかをきちんと論議していかなければならないと思っています。

石上 今の日本は政策課題が山積みです。経済再生、産業の競争力、将来の社会保障と消費税率アップの問題。格差社会、教育、安全保障。そしてもちろん少子化対策、子育て、真の意味で「女性が躍動する社会」等。ぜひ矢田さんにも国会での議論に加わっていただき、働く仲間・職場の声をしっかりと代弁してもらうため、投票日当日までわたしもいっしょになり走っていききたいと思います。

加藤 初心を大切に自然体で活動されれば、必ず気持ちが通じ、みなさんに応援していただけると思います。その一心でがんばってください。

石上議員 活動報告



● 予算委員会でも総理他10大臣に実質賃金上昇、IoT戦略や東京五輪でのわが国技術のショーケース化の重要性を訴えました。

● 本会議や委員会で「産業活力の復活」「将来の生活不安払しょく」を主題に当選後2年間で27回の質疑・討論を精力的に行っていました。

● 具体的には、国際競争力のイコールフットイングや、減価償却資産等の税制改正、産業の規制改革、知財権、社会保障と消費税率アップ等。また各論として産業のスマート化、AI、ドローン、4K8K、通信網、医療、防災減災、社会インフラ、宇宙開発、エネルギー計画、サイバー戦略等。基本姿勢は「現場の声を国政に」で委員会質問に全力で臨んでいます。

● 質問主意書制度を活用し、電機連合政策集から主意書を作成・提出し、答弁書9本を閣議決定させました。「ワーク・ライフ・バランスの実現」「均等均衡待遇」「社保税改革」等。

● これまでに実現した主な政策として半導体工場の検査規制の改善、既築マンションの太陽光パネル使用制限の撤廃、機械室なしエレベーターの適用範囲拡大等があります。

● 現在、党・政策調査会副会長として参院選マニフェストの策定に参画。